

日本女性科学者の会 NEWS



The Society of Japanese Women Scientists

No.114 2014.3

I. 2014年新春懇談会・臨時総会報告、お知らせ

SJWS 会長 大倉 多美子

2014年度新春懇談会が1月12日（日）、幸いなことに天候にめぐまれ、学士会館において無事開催されました。今年度は臨時総会を兼ねたものとなりました（本誌7ページの臨時総会報告参照）。懇談会には今年度より、当会として設けました相談役（大野茂男、石浦章一、齋尾恭子、藤田禮子の4氏）の石浦、齋尾両氏並びに大学女性協会会長の阿部幸子氏に、ご多忙中にもかかわらずご列席賜り、心に残るお言葉をいただきました上に、最後まで会員の輪に加わり、懇談会を盛り立てて頂き、和やかなうちに散会いたしました。この紙面をお借り致しまして厚く御礼申し上げます。

さて、SJWS運営の新体制スタートから早や半年が過ぎようとしております。そこで少し当会の刷新の流れをご説明いたしたいと思っております。会員の方々がSJWSの会員となって本当に良かったと思えるような社会的責任を果たせる科学者の団体を目指します。老若を問わず各々持ち得る能力を発揮し、バランス良く、当会の特徴を生かしつつ活性化させていきた

いと思っております。

従来は会長が交代する度に事務局が変わるため時間的損失が非常に多く、また会の活動が活発化すればする程、事務局が忙殺される状況下にあります。それ故、ボランティア団体としての限界が見えており、現在もその状況は続いております。そのため、早急な事務局の固定化が課題となっております。ホームページも新しく開設いたしましたが、まだまだ不十分なため、財源に余裕が出来次第会員の皆様方が使用し易い様、徐々に充実させてまいりたいと考えております。限られた財源の中で、ご多忙な担当理事の事務的負担を極力軽くしたいと考え、最新の情報技術を駆使して、各賞および学術雑誌をペーパーレス化しました。SJWSニュースは、会員の皆様のご活躍の動向なども掲載して、従来通り広報誌として年2回全会員のお手元に郵送してまいります。本ニュースを是非ご一読いただきたいと思います。



SJWS 大倉会長
挨拶

以上の難題を根本より解決していく一つの方法として、平成20年の法人に対する法律の大改正を考慮し、当会も世の流れに従う必然性を意識し、約2年かけ広範な情報収集を行い法人化の準備を進めて参りました。今回理事会の決定と臨時総会での承認を受け、本年4月1日よりの一般社団法人（早期に公益社団法人へ移行予定）設立を目指し、定款の認証、登記の手続きに入ることになりました。その結果、社会に於いてより信頼性の高い団体として認知され、各方面（特に国など）からの助成金、寄付金なども受け易くなる利点がありますが、反面、理事会の権

目次

- I. 2014年新春懇談会・臨時総会報告、お知らせ … 1
- II. 福島で開催・内閣府/SJWS共催事業 …… 3
「理系の仕事～いつか未来を創るあなたへ」報告
- III. 例会報告 …… 5
- IV. 幾瀬マサ先生を偲ぶ会 …… 6
- V. 臨時総会報告 …… 7
- VI. 会員の活躍 …… 7
- VII. 2014年新春懇談会および臨時総会風景 …… 8

I. 2014年新春懇談会・臨時総会報告、お知らせ

限が強くなりますので各理事の義務、責任が重くなります。

併行して、女性科学者が広く活躍できる環境を作っていくためには、性別や専門分野を超えた形での男女共同参画の推進が必要であり、本会の情報交換・議論の場を活用しつつより幅広い分野との連携によるアピールや情報発信が鍵を握ると考えております。さらにそれらの活動により、超党派行政への積極的働きかけ、内閣府男女共同参画局、国際婦人連絡会(国連)および各種の多くの女性団体との連携、活動協力により現在、着実に理系女子への流れが認知されつつあるものと考えております。その一環として、本年2月2日(日)に震災から3年、復興には未だ程遠

い福島において優秀な若手人材育成を目的に、内閣府との共催事業を開催いたしました(本誌3~4ページ参照)。中高生170名余の参加と教員・ファシリテーター併せて参加者200名を超えるイベントとなり、成功裡に終える事ができました。ご協力いただきました多くのご関係者の方々に感謝申し上げます。また本年より若手会員を中心とした勉強会をスタートさせ、本会の中において若手の会を立ち上げました。会員の皆様の中で、自由に積極的に科学の輪を広げていただければと思っております。

以上の事を会員の皆様にご理解いただき、なお一層のご協力を重ねてお願いいたします次第でございます。

新春懇談会2014に参加して

SJWS相談役・東京大学大学院教授 石浦 章一

先日、日本女性科学者の会の相談役に任命されるという快挙を本部局の教授会で披露され、同僚から羨望のまなざしで注目されました。大変光栄に感じております。

また先日、新春懇談会に招待され、参加させていただきましたが、万緑叢中紅一点を逆にしたような状況で、久しぶりに有意義な時間を過ごすことができました。また、大倉多美子会長をはじめ、そうそうたるメンバーに紹介され、女性科学者の現状をお伺いしました。子育てのこと、昇進のことなど、我が国の抱えている問題がすべて紹介され、現実には厳しいということを知ることになりました。

生命科学をはじめとして我が国の科学研究に占める女性の割合が増えていますが、まだ欧米並みには至っていません。しかし、この日本女性科学者の会の活動をお伺いしますと、女性科学者コミュニティは前途洋々たるものがあると感じましたが、女性若手研究者の研究環境をどう改善するか、どうエンカレッジするか、女性研究者をどのようにして会にリクルートするか、HPをはじめとする広報をどう展開するか、多分野の人材をどう束ねていくかなど、課題も2、3見受けられました。非力な私ですが、これらに関して側面からお役に立てれば幸いです。

今後とも、どうぞよろしく願いいたします。



今回相談役に就任した
石浦章一 東大教授



中山理事(司会)



事務局からのお知らせ



「日本女性科学者の会総会及び第19回奨励賞・功労賞授賞式」が2014年6月22日(日)午後に学士会館で開催されます。

詳細は後日お知らせいたしますが、まずは日程の調整をしていただくことで、多くの会員の皆様が参加されますように、よろしく願い申し上げます。

Ⅱ. 福島で開催・内閣府 /SJWS 共催事業「理系の仕事～いつか未来を創るあなたへ」報告

「理系の仕事～いつか未来を創るあなたへ」

国・地方連携会議ネットワークを活用した男女共同参画推進事業、日本女性科学者の会との共催（福島県福島市）開催についてご報告

SJWS理事・福島県立医科大学医学部准教授 本間 美和子

この度、日本女性科学者の会は内閣府との共催事業として、福島市にて「理系の仕事～いつか未来を創るあなたへ」と題するシンポジウムが開催されましたので、ご報告申し上げます。本企画は、2012年11月都内で開催された東京都主催公募事業「サイエンスネットワークを広げよう！—科学の楽しさを知ろう—」が好評であったことから、そのブラッシュアップ版として内閣府公募事業（平成25年度国・地方連携会議ネットワークを活用した男女共同参画推進事業）へ応募し、31件中9件採択の一つとなったものです。

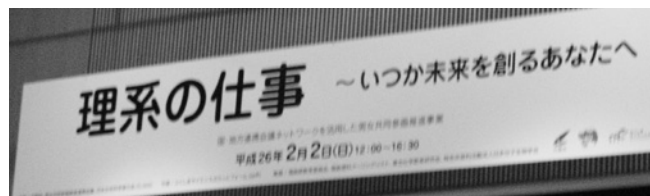
震災後支援の観点から、SJWSは2012年1月新春懇談会の折には招聘講演者ご出席のもと、今後の支援具体策について議論を行い、早速11月の行事へは、福島県立福島高等学校生徒さん13名と引率教員1名様を招聘いたしました（SJWS NEWS No.112 2013.3参照）。今回は、ここ福島ならびに東北におられる学生・院生・教員・研究者達と、理系の仕事で国内外で活躍する女性達との対話を目的とし、生活基盤の復興に続く課題の一つとして理系を担う次世代若手育成による裾野の拡大が被災地域に夢と希望を与え活性化へ貢献する、という大きな期待をこめた企画となりました。

当日は、主に福島県内の中高校生170名を含む総勢200名ほどの参加者を得て、第1部は国内外の科学分野で活躍する7名の方々のご講演、ならびに第2部では、来場者が講師と直接対話のできるグループディスカッションが、大盛況の内に行われました。科学分野にもさまざまな仕事があり、招聘講演者それぞれ多様なバックグラウンドをお持ちですが、マスコミ、企業研究所、大学、その他国内外教育研究機関の第一線で活躍する方々の心からのメッセージは、参加者の心に大きな刺激を与え、励ましとしても記憶に残ったことと拝察いたします。特にグループディスカッションについては、理系人材育成という観点から、研究者と直接話す機会が無い中学・高等学校教育の段階から世代間のつながりを構築すること、

将来、自らが望む理系分野への進学や理系の仕事への従事をスムーズに選択出来ること、そして管理職やリーダーとして質の高い人材に育ててほしいこと、等の主旨のもと様々な工夫を凝らしました。一つのテーブルに20名近い生徒さんがぐるりと囲む形式となりましたが、講師陣そしてファシリテーター皆様のご協力により、参加者の意識を一步前へ進められる企画となった、と確信いたします。

早速、地元複数のメディアも取り上げていただきましたので、記事の一部を掲載いたします。福島へ駆けつけてくださった講師皆様はじめご参加の皆様へ、心より御礼申し上げますと共に、ご支援とご協力いただいたすべての関係諸機関皆様へ、あらためて感謝申し上げます。

最後に、内閣府は「民間・地域等と連携することにより、男女共同参画社会の実現に向けた諸課題とその解決策について、国民各層における理解を促進することが重要」、との方針で本事業を推進しておりますが、全国のSJWS会員各位もそれぞれの地域でより良い連携のためのネットワークを構築しながら、今後の活動を効率よく工夫してゆく時期に来ていると感じました。様々なツールを駆使しつつ、心意気のあるSJWS活動を、チカラを合わせて進めて行きたいと存じます。



Ⅱ. 福島で開催・内閣府/SJWS 共催事業「理系の仕事～いつか未来を創るあなたへ」報告

プログラム

平成26年2月2日（日）12：00～16：30

司会進行：本間 美和子（SJWS理事）

開会挨拶：大倉 多美子〈SJWS 会長〉



第1部 理系の楽しさ、仕事の喜び

日野珠美（NHK 報道局報道番組センター チーフプロデューサー）

小杉尚子（NTTコミュニケーション科学基礎研究所研究主任）

阿部啓子（東京大学 農学部名誉教授）

外山玲子（米国国立衛生研究所 Health Scientist Administrator）

武田裕子（ハーバード大学医学校総合診療部門フェロー）

勝山雅子（資生堂 新領域研究センター食品応用研究G 副主任研究員）

高橋真理子（朝日新聞編集委員）



-----<休憩>-----

第2部 グループディスカッション

～科学のチカラを伝えよう～

閉会挨拶：河上 隆（内閣府男女共同参画局）



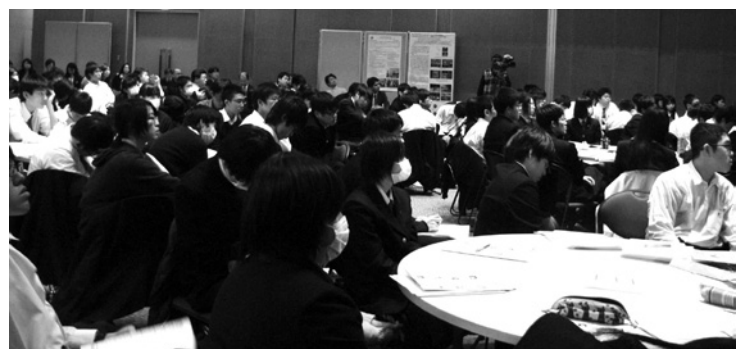
細道 万能細胞を作製した理化学研究所の小保方晴子さんと理系女子「リケジョ」に注目が集まる中、大学や研究機関、報道など各分野で活躍するリケジョの講演イベント「理系の仕事」が2日、福島市で開かれ、県内外の中学、高校生らが将来に夢を膨らませた。

▽：内閣府、男女共同参画推進連携会議、日本女性科学者の会が開き、県内外から約160人が参加。理系の仕事に携わる女性7人が仕事を志したきっかけや仕事の内容などを紹介した。

▽：このうち、ハーバード大医学校総合診療部門フェローを務める武田裕子

▽：新たなさん「自分で制約を設けず、やりたいことに全力で取り組んでほしい。近くにあこがれの人を見つけてほしい」と語り掛け、写真、参加者らが熱心に聞き入った。

平成 26 年 2 月 3 日 福島民友新聞掲載



Ⅲ. 例会報告

～ SJWS2013年度例会プログラム ～

若手女性研究者による研究発表と諸々の語り合い！

1. 日時： 2013年11月23日（土、祝） 13：30～16：00
2. 会場： キャンパスプラザ京都（京都駅向側）
3. 例会次第、講師
13：30～13：35 SJWS関西支部長挨拶 功刀由紀子理事
13：35～14：15 吉川尚子氏 静岡理工科大学工学部物質生命科学科講師
「クルマエビにおけるD-アミノ酸の機能解析」
14：15～14：30 休憩
14：30～15：10 石渡小百合氏 東京医科歯科大学精神行動医科学分野CREST 研究員
「哺乳類脳内における細胞外液中D-セリンの調節メカニズム」
15：10～16：00 懇談会
ファシリテーター：玄番央恵 理事
16：00 閉会挨拶：藤井紀子 理事

2013年度SJWS例会報告

2013年度のSJWS例会を、2013年11月23日（土）京都にて開催しました。今回は、2名の若手女性研究者（SJWS非会員）による講演と、参加者全員による懇談会を企画しました。講演内容は次の通りです。

- ・吉川 尚子氏（静岡理工科大学工学部物質生命科学科講師）

【講演内容】：クルマエビにおけるD-アミノ酸の機能解析

近年、D-アミノ酸は、水生無脊椎動物から哺乳類に至るまで広く存在することが明らかにされている。特に、甲殻類では諸組織中に多量の遊離型D-アミノ酸が存在している。そこで、クルマエビにおけるD-アミノ酸の生合成および生理機能に関する研究を紹介する。

- ・石渡 小百合氏（東京医科歯科大学精神行動医科学分野CREST研究員）

【講演内容】：哺乳類脳内における細胞外液中D-セリンの調節メカニズム

哺乳類の脳内に高濃度に存在するD-セリンは、NMDA受容体の内在性のアゴニストであり、脳高次機能の発現や精神疾患への関わりが報告されている。今回は、近年明らかになってきたD-セリンの調節メカニズムの一部を概説する。

講演内容は、いずれも遊離D-アミノ酸の生理活性に関する興味深い内容でした。実験材料にエビを使用している講演の際には、昨今の表示偽装にも話が及び、楽しい講演でした。後半の懇談会では、研究や勤務環境に関する苦労話から女性研究者の地位向上に関する話題など広範囲な内容で懇談会が盛り上がり、終了時刻を忘れるほどでした。

今回の例会は開催時期が多方面における繁忙期に当たり、参加者数は大倉会長も含めて7名と残念な数字でした。講演内容や懇談会の盛り上がりから、多くの方に参加頂きたかったと悔しい思いを持つ一方で、参加者動員の不手際を反省しています。

功刀由紀子（SJWS関西支部理事）



IV. 幾瀬マサ先生を偲ぶ会

「幾瀬マサ先生を偲ぶ会」に参列して

日本女性科学者の会 理事 石川 稚佳子

平成25年11月16日、澄み切った青空の下、霞が関にある東海大学校友会館望星の間にて、幾瀬マサ先生を偲ぶ会が開催されました。

幾瀬マサ先生は、平成23年2月22日に96歳で永眠されました。

先生は、日本女性科学者の会の第2代日会長として約10年間女性研究者のためにご尽力され、1997年には本会の功労賞を受賞されています。

昭和10年帝国女子医学薬学専門学校（現東邦大学薬学部）をご卒業され、昭和44年には、日本で初めての女性薬学部長となりました。ご研究においては、久内清孝教授のもとで薬用植物学の研究、特に花粉の形態学を探究されました。日本における花粉学の基礎を築かれると同時に、今日における花粉症との関連研究の端緒を開かれました。その著書として「日本植物の花粉」に集大成されています。

幾瀬マサ先生を偲ぶ会では、先生とゆかりのある方々約120名のご参加のもと、心温まる盛大な会が開催されました。大倉多美子会長もご挨拶され、女性研究者の先駆けとしてご苦勞やご活躍の様子を話されました。また、会場では、先生の若かりし時からご退職に至るまでの思い出深い大学生活の名場面が写し出され、皆、先生との思い出を懐かしく語り合っていました。

私の先生に対する一番の思い出は、昭和44年大学4年生の時のことです。当時、全国的に大学紛争が吹き荒れており、東邦大学もまた同様に大学紛争に巻き込まれ学校封鎖などが行われていました。薬学部長になられたばかり先生は、連日のように学生との団交に追われていましたが、お疲れの様子も見せず小柄な体で凛としたお声で果敢に学生と対峙されていました。そのお姿は、驚きと尊敬をもって、今でも私の脳裏に強く残っております。

記念品の1つとして、「薬草の花だより」という貴重で素晴らしい本を頂きました。この本は、先生が大学の情報誌に毎号連載されていた記事を研究室の方々がまとめられたものです。189種におよぶ薬草の解説とカラー写真、そして、研究の面白さを語ったインタビュー記事などが掲載されています。この本からも先生の真面目で竹を割ったような真直ぐなお人柄が偲ばれます。

最後に先生のご冥福を心からお祈り致しております。



V. 臨時総会報告

2013年度臨時総会議事録

日 時：2014年1月12日（日）
13：30～14：30 学士会館 302号室
議 長：石川稚佳子
書 記：近藤科江
会員総数：322名 委任状：115名 出席者：20名

議 題

1. 新理事の承認

清島真理子、大富美智子の両氏が、新理事として承認された。また、新理事は理事会での決定直後から任務を執行できるとする第14条の規約改正案が承認された。

2. 相談役設置に伴う規約の改正

相談役および相談役会の設置に関する第18～20条を追加した規約改正案が承認され、相談役として、大野茂男、石浦章一、齋尾恭子、藤田禮子の4氏が承認された。

3. 法人化設立の承認

理事会で法人化設立について承認されたことを受けて、会長より一般社団法人化の必要性およびこれまでの準備状況、法人化された場合の大きな違いについて説明があった。また、最終的には公益社団法人をめざすが、必ず一般社団法人を経なければならず、まずは一般社団法人設立を4月1日に行う事をめざすなど、今後の法人化計画についての説明があった。質疑応答の後、計画通り法人化することが承認された。また、法人化の手続きに必要な定款案について、今後理事会で検討して最終案を作成していくことについても承認された。

4. 国際婦人年連絡会の件

2月2日に内閣府との共催イベントがあり、国際婦人年連絡会が政府へ提言を出すので、SJWSとしても福島支援としての活動を推進するために、SJWSの参加者および会員からも要望を出してほしいとの報告が国際婦人年連絡会担当の宮本理事からあった。

5. 第1回勉強会の開催

有益な情報を若い会員に発信することで本会の活動を活性化するために、今年から勉強会を開催することが計画されており、第1回として、2月15日17：00～19：00 東京薬科大学千代田キャンパス講義室3において、「公的研究資金の取り方について（仮）」塩満典子先生の講演を予定。

VI. 会員の活躍

受賞・表彰者一覧（2013）

1. 副島久実

独立行政法人 水産大学校 水産流通経営学科
The GAF4 Best Paper Award from Gender in Aquaculture and Fisheries for the Asian Fisheries Society. May 2013, Yoesu（麗水）, Korea

2. 佐々木政子

東海大学 名誉教授
・国際照明委員会（CIE）Award（2013年）
・社団法人日本化学会フェロー（H25年度）

3. 細谷紀子

東京大学大学院医学系研究科
疾患生命工学センター 講師
・平成24年度東京都医師会医学研究賞（東京都医師会）
・2012年度 内藤記念科学奨励金・研究助成（公益財団法人 内藤記念科学振興財団）

4. 友村美根子

明海大学歯学部 薬医学研究室
・2013年度明海大学歯学部優秀論文賞

編 集：山口 陽子・大富 美智子・猪俣 芳栄
小杉 尚子・四谷 理沙

発行所：日本女性科学者の会 ©

事務局：〒160-0015 東京都新宿区大京町 13-15-203

慶應義塾大学医学部 大倉気付

TEL/FAX 03-6802-6708

Ⅶ. 2014年新春懇談会および臨時総会風景

日本女性科学者の会
新春懇談会

